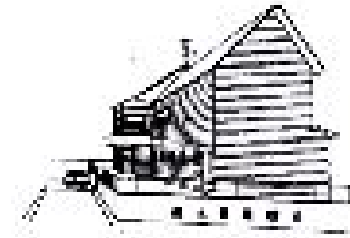


<今日の聖書から>

草薙教会には、静岡英和女学院の生徒が大勢集ってくれます。感謝しましょう。この人たちが、最初に覚える言葉の一つに“主の祈り”があります。その先生によって、教える時の説明は違うでしょうが、これが新約聖書の中にあることが説明され、その名の通り、お祈りの言葉になっています。教会が関わる幼稚園などに通った、沢山の人が、この言葉を覚えています。他にも大切な言葉があります。“十戒”、信仰告白と呼ばれる“使徒信条”および“式文”です。あとの二つは、聖書からではなく教会の歴史の中で、信仰者によって作り上げられてきた大切な文章です。今朝の中心になると思われる“主の祈り”はルカの11：1以降にもほぼ同じ形で記録されています。両方ともイエスさまが“このように祈りなさい”とおっしゃっていることです。ピリピ4：6に“願いとをささげ、あなたがたの求めるところを神に申し上げるがよい”とありますが、この“願いを捧げる”こと、または“願いを申し上げる”ことが祈りの出発点と考えて全く正しいでしょう。さて私たちは何を申し上げているのでしょうか。不幸にならないようにとも願うでしょう。“これさえ実現されれば幸福になれるのに”と思ったりするでしょう。みんな幸福になりたいと願いを申し上げるのです。しかし私たちは、山のようにやってくる不満の中に生きているといってもよいでしょう。そして幸福を求めますが、仮に一つのこと願い通りになっても、次のものに直面する、“幸福を求める人は多い、けれど幸福を知っている人は少ない”という有名な言葉があります。それでも、幸福は(あるいは救いは)ほしいもの。だからその代わりに“また、祈る場合、異邦人のように、くどくどと祈るな。彼らは言葉がずが多ければ、聞きいれられるものと思っている(6：7)”とあるようなことになっていることはないでしょうか。“主の祈り”について、ルカ11：1を見ると、これは“どのようにお祈りすればよいのですか”という弟子たちへの答であることがわかるし、今朝の箇所からも、“こう祈りなさい”という指示であることがわかります。“あなたの名が崇められなさい”という命令の形で記された言葉で始まる、祈りを初代の教会は“教えられた”ということによって、自分たちを確立する自信を身につけ、教会の主要な言葉に採用しました。教会は、父祖の祈り、預言者の祈り、公同教会の祈り、改革期の祈り、そして現代の祈りを大切にしています。私たちも教えられ、そのようにしているのです。

週報

2009年 5月 17日



伝えよう 救い主を
迎えよう 主の民を

日本フリーメソジスト

清水草薙キリスト教会

牧師 村上 定幸

ユース礼拝	毎日曜日	午前 9:00
礼拝式	毎日曜日	午前 10:30
	(聖餐式 第一日曜日)	
夕礼拝式	毎日曜日	午後 7:00
エステル会	毎水曜日	午前 10:30
聖書研究祈禱会	毎水曜日	午後 7:00
ホームページ	http://kusanagi.church.jp/	

〒424-0885

静岡市清水区草薙杉道3丁目2-26

☎054-345-4070 E-Mail grace@big.jp